

福島第一原子力発電所における  
2025年度の人身災害発生状況及び  
安全活動状況について

2026年2月5日

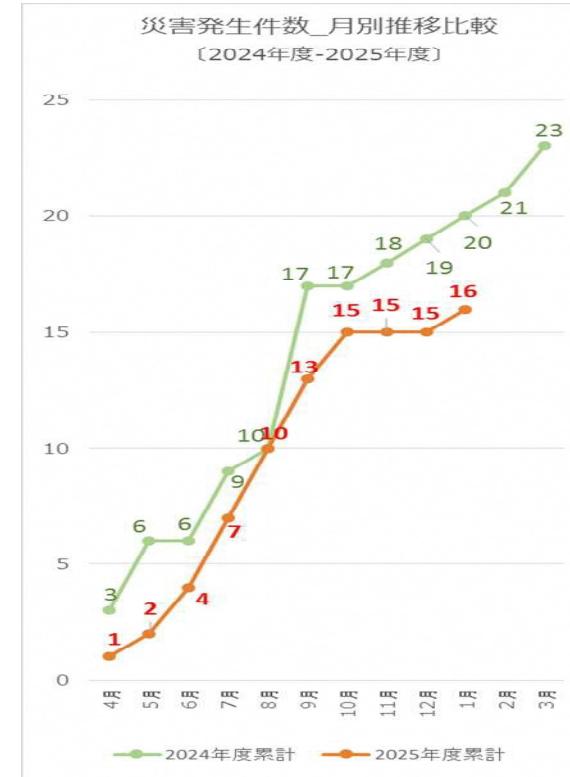
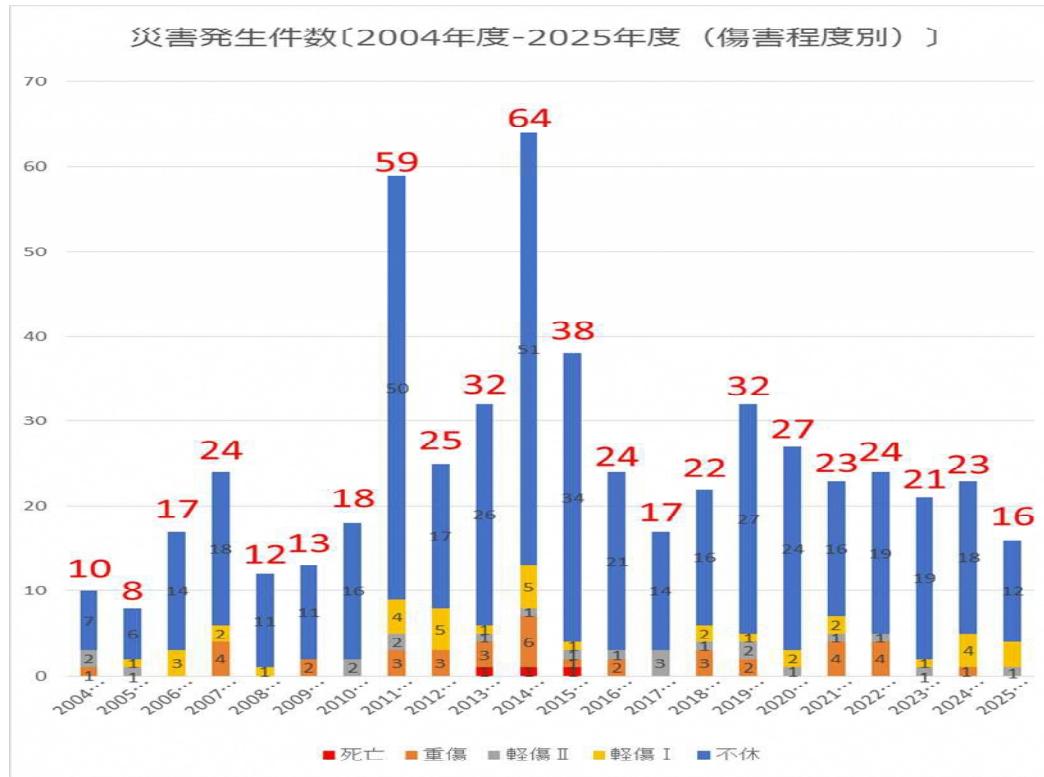
---

東京電力ホールディングス株式会社

# 1.2025年度災害の発生状況 (1/3)

(2026年1月末現在)

## (1) 災害発生状況 (全災害)



- ・2025年度の災害は、2024年度1月末値と比較して4件減（20件⇒16件）となっている
- ・2025年度の休業災害は、2024年度1月末値と比較して1件減（5件⇒4件）となっている
- ・2025年度の休業災害以上の度数率は、「0.50（前年度0.47）」であり、全国の令和6年総合工事業の度数率「1.91（前年1.69）※」より低い状況
- ※出典：厚生労働省 令和6年労働災害動向調査
- ・度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数

\* 傷害程度：休業日数による分類 ・重傷：14日以上 ・軽傷Ⅱ：4～13日 ・軽傷Ⅰ：1～3日 ・不休：休業なし

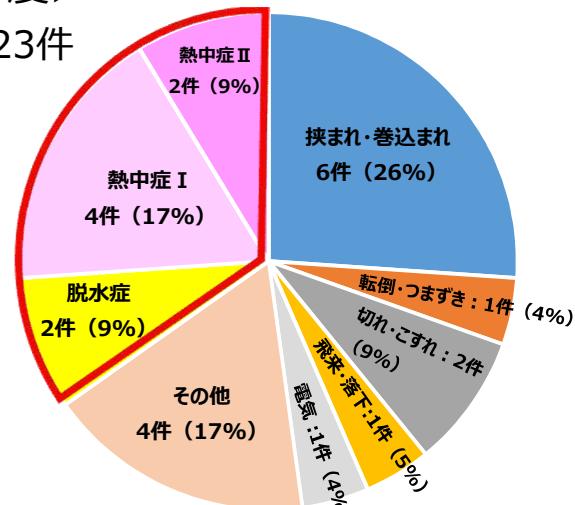
# 1.2024年度災害の発生状況 (2/3)

(2026年1月末現在)

## (2) 災害種別内訳

<2024年度>

全件数：23件



※その他：①化学火傷、②腰痛、③頭部打撲

<2025年度>

全件数：16件



※ その他：①腰痛、②顔面裂創

### ◇2025年度災害 ~災害種別と傷害の程度

- 「挟まれ・巻込まれ」 ⇒ 不休：2件
- 「転倒・つまずき」 ⇒ 軽傷 II : 1件／軽傷 I : 1件
- 「その他」 ⇒ 不休：2件
- 「交通」 ⇒ 不休：1件
- 「熱中症・脱水症」 ⇒ 軽傷 I : 2件／不休：7件

### ◇災害の傾向 ~災害種別で一番割合が高いもの

#### 「挟まれ・巻込まれ」

2024年度 5件 ⇒ 2025年度 2件 (前年度比：3件減)

#### 「転倒・つまずき」

2024年度 1件 ⇒ 2025年度 2件 (前年度比：1件増)

#### 「交通」

2024年度 0件 ⇒ 2025年度 1件 (前年度比：1件増)

### ◇「熱中症・脱水症」の傾向

2024年度 8件 ⇒ 2025年度 9件 (前年度比：1件増)

#### [内訳]

- ・軽傷 I : 热中症 I : 2件
- ・不休 : 热中症 I : 4件、脱水症 : 3件

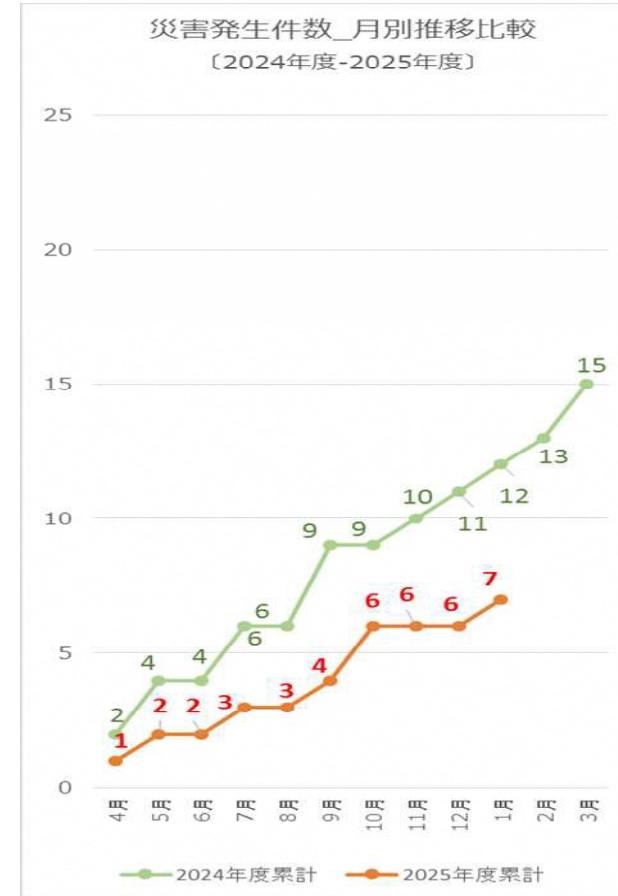
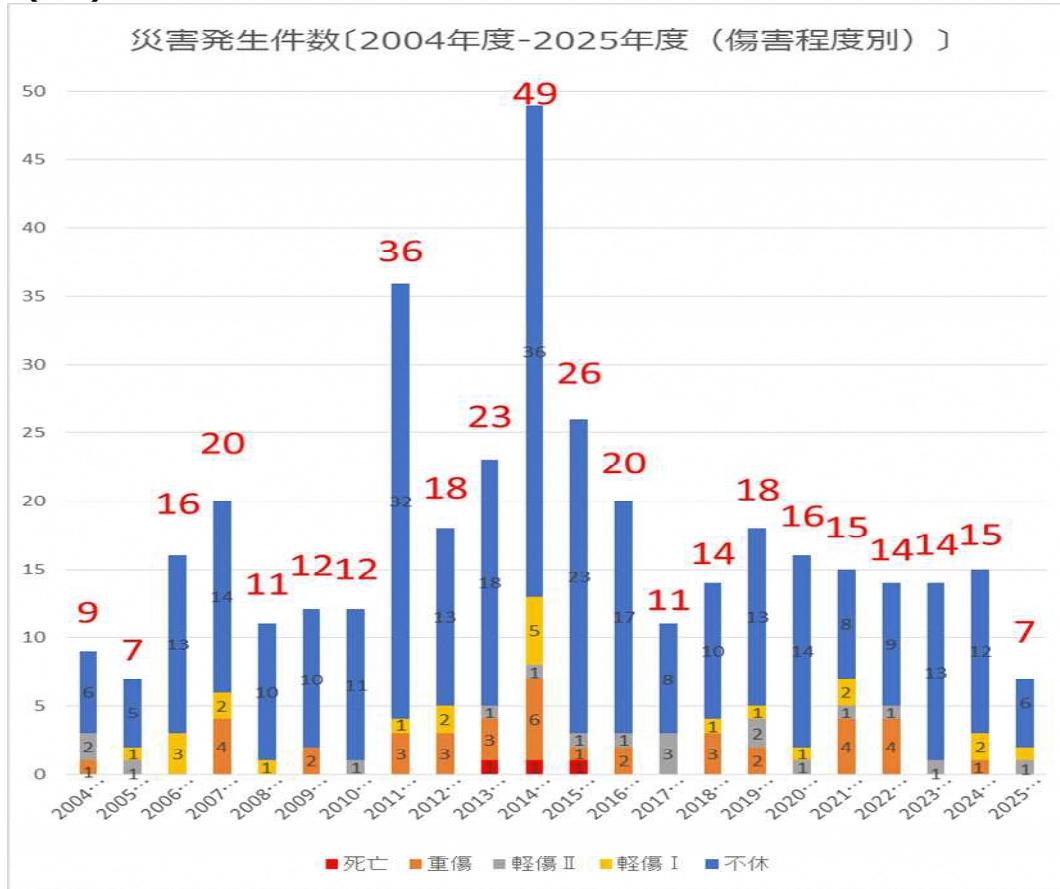
### ※参考: 热中症重症度分類

- ◆ 热中症 I … めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直
- ◆ 热中症 II … 頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感
- ◆ 热中症 III … IIの症状に加え、意識障害、けいれん、手足の運動障害

# 1.2025年度災害の発生状況 (3/ 3)

(2026年1月末現在)

## (3) 災害発生状況 (熱中症除く)



- 2025年度災害 (熱中症除く) は、7件で、軽傷Ⅰが2件、不休が5件となっている
- 2025年度災害 (熱中症除く) は、2024年度1月末値と比較して5件減 (12件→7件) となっている

<2025年度>		<2024年度>	
重傷	7件	重傷	12件
軽傷Ⅰ	2件	軽傷Ⅰ	2件
不休	5件	不休	9件

\* 傷害程度：休業日数による分類 ・重傷：14日以上 ・軽傷Ⅱ：4～13日 ・軽傷Ⅰ：1～3日 ・不休：休業なし

# 2.2025年度災害（熱中症除く）の概要

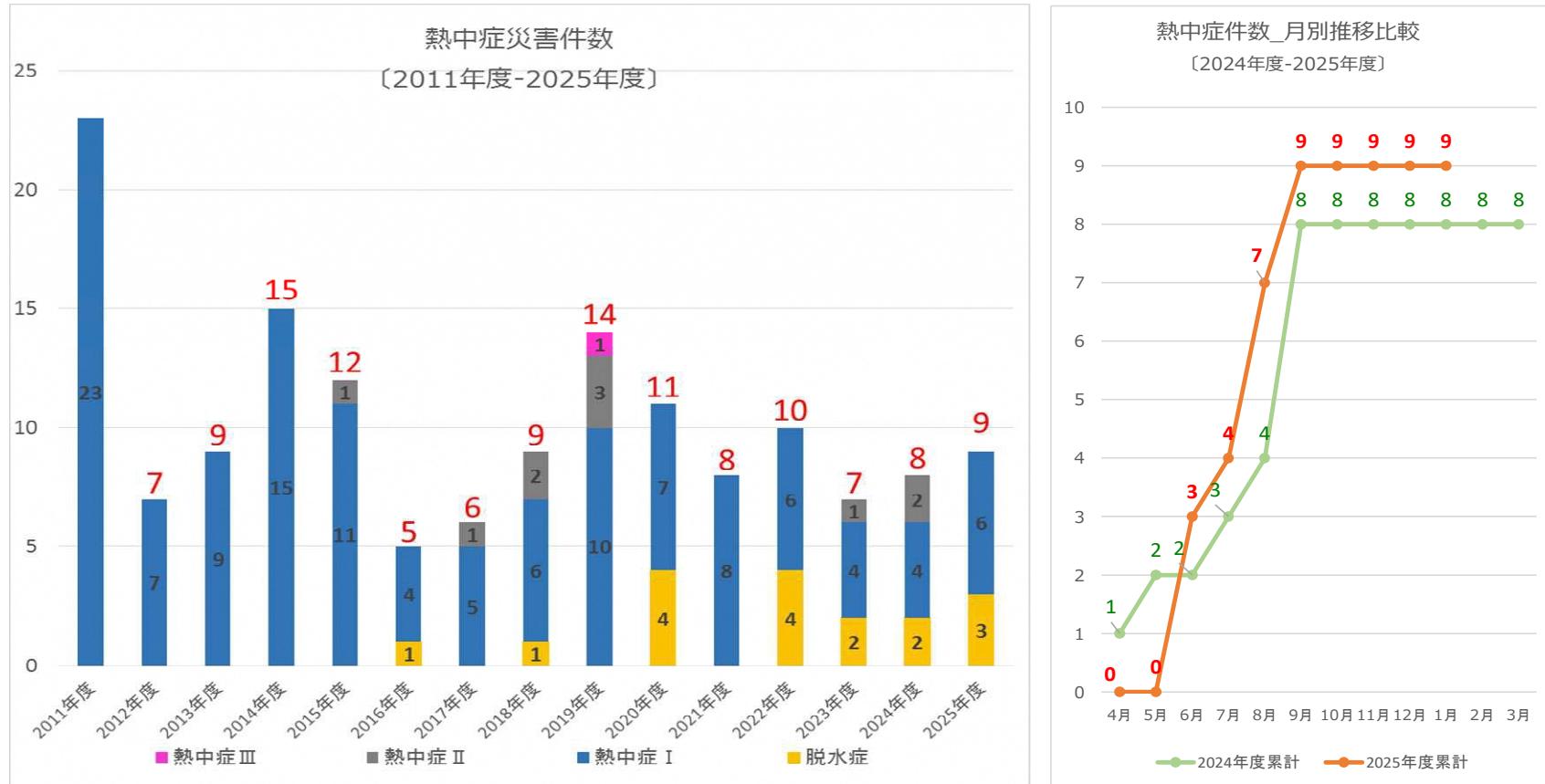
(2026年1月末現在)

No	年月日	件名	概要	場所	傷害程度	装備	種別	年齢	1F 経験	作業状況	負傷部位	物的要因 (危険源)	作業点検で 左記危険 源は抽出さ れていたか	危険源はなぜ 抽出されなか つたのか	顕在化シナリオにな せ想定できなかつた のか？	対策
1	4月24日	構内企業棟エリアにおいて、後退してきた4tユニック車に接触し負傷	4tトラック車の運転者（加害者）は、乗車せずエンジンを始動した際に、ギアがバックに入っていたことに気がつかなかったため、後方へ急発進した。動いた車両は、他工事で從事していた作業員（被災者）に接触した。	元請企業棟エリア	不休	Y装備（カバーオール2重、全面マスク、全面マスク、革手袋、G長靴）	交通	40代	5年 6ヶ月	作業中	腰	トラック	抽出している	—	ルール不遵守（車外からの操作）まで想定できなかつた	運転席に座り操作を行う
2	5月27日	ジャバラハウス格納時に可動部に指を挟み負傷	汚染拡大防止ハウスを燃料取り出し用構台へ設置後、ハウス格納時に被災者がジャバラハウスの可動部に指を挟んでしまい負傷した。	2号燃料取り出し用構台6FL	不休	G装備（DS2マスク革手袋）	はさまれ・まきこまれ	60代	1年 3ヶ月	作業中	手	蛇腹ハウスのクロスフレーム	抽出していない	レール移動時までのリスクを抽出していないかった	両サイドレール外しの変更の際に立ち止まらなかつた（想定外作業でリスクが高まつた）	道具を使用する工法に見直す
3	7月18日	新事務本館食堂 従業員トイレでの転倒負傷	給食センターの従業員用トイレの清掃を終えて、個室から出たところ、自身のスリッパを踏んでしまつことで、足がもつれで転倒し、壁にわき腹をぶつけて負傷した。	新事務本館 食堂	軽傷 II	一般服（マスク無し、スリッパ）	転倒・つまずき	50代	10年 4ヶ月	作業中	脇腹	スリッパ	抽出していない	清掃を作業と認識していないかった（手順書に未記載）	同左	踵のある靴を装備
4	9月30日	K4タンクエリア近傍にて資機材積込み・搬入作業（最大重量：約20kg）中に腰の痛みを感じたが、作業を継続した。事務所に戻つてからも腰の痛みが引かなかついたことから、医療機関で診察を行い、腰痛症と診断された。	K4タンクエリア	不休	G装備（空調服、DS2マスク、クールベスト、綿手袋、ゴム手袋2重、皮手袋、靴下2重）	その他	20代	0年 0ヶ月	作業中	腰	資機材	抽出している	—	安全ルールは順守していたが、腰を痛めてしまった	安全ルール再周知	
5	10月9日	鉄骨のボルト締め付け作業中に左薬指を負傷	被災者は、姿勢の悪い状態で反力受け付きの電動トルクレンチのソケットをボルトにはめ込む際に、誤って起動トリガーを押してしまい、反力受け部と部材間に左手薬指が挟まれてしまつた。	大型廃棄物保管庫第一棟	不休	G装備（DS2マスク、保護メガネ、綿手袋、ゴム手袋1重、革手袋、靴下2重、安全靴、墜落制止用器具）	はさまれ・まきこまれ	40代	0年 0ヶ月	作業中	手	反力受け電動トルクレンチ	抽出している	—	当該作業では、物的対策ができないと判断してしまつた（確認不足）	物的対策追加（指はさみ防止シート等）
6	10月27日	インパクトレンチ工具でボルト締め付け後同工具引き抜き時での顔面負傷	鋼矢板のブルマンクランプを外す作業において、ブルマンクランプのボルトから外れにくくなつたインパクトレンチを引っ張つた際、インパクトレンチ本体が顔面にあたり、唇を負傷した。	固体廃棄物貯蔵庫第11棟建設地	不休	G装備（DS2マスク、一般服、綿手袋1重+ゴム手袋1重+革手袋、耐火服、靴下2重、G短靴）	その他	40代	1年 1ヶ月	作業中	顔	インパクトレンチ	抽出していない	当該工具の作業点検を未実施	防護処置が未評価のまま作業を実施	高所作業車を活用
7	1月8日	ノッチタンク減容作業中に負傷	クレーンを使用してコンテナへ解体片を収納する作業を終えた作業員（被災者）は、コンテナ内部から出ようとした際に、外側の敷き鉄板上に落下てしまつた。右手首、右下腿を負傷した。	一時保管エリアW	軽傷 I	Y装備（綿手袋・ゴム手袋3重・浸湿性防火スーツ・皮手袋・ゴム長靴）	転倒・つまずき	50代	3年 5ヶ月	作業中	手・足	コンテナ	抽出していない	作業点検から8か月が経過し、環境が変化していた	普段継続している作業であり、危険と認識できなかつた	手摺付き昇降設備を設置

\* 傷害程度：休業日数による分類 ・重傷：14日以上 ・軽傷II：4～13日 ・軽傷I：1～3日 ・不休：休業なし

# 3.2025年度の熱中症災害発生状況

(2026年1月末現在)



- 2025年度は、熱中症Ⅰが6件、脱水症が3件 発生している
- 2025年度は、2024年度1月末値と比較して総件数では1件 増 (8件⇒9件) だが、ERの積極的活用の呼掛けにより、熱中症Ⅱの件数は2件⇒0件と、重症化は防げている

<2025年度>		<2024年度>	
熱中症Ⅱ	0件	熱中症Ⅱ	2件
熱中症Ⅰ	6件	熱中症Ⅰ	4件
脱水症	3件	脱水症	2件

※熱中症重症度分類 ◆熱中症Ⅰ … めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直 ◆熱中症Ⅱ … 頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感  
◆熱中症Ⅲ … Ⅱの症状に加え、意識障害、けいれん、手足の運動障害

## 4.2025年度の熱中症（脱水症含）の傾向

- 2025年度において、熱中症対策期間中にERで熱中症・脱水症と診断された数（熱中症災害の対象外も含む）は28件で、2024年度の13件と比較して約2倍となっているが、ERの積極的活用の呼掛けの効果であり、2025年度は酷暑にもかかわらず、熱中症災害数は昨年と同等、熱中症Ⅱ件数は0件と、重症化はしていない

番号	医療行為有り (災害該当)	発症日	曜日	症状	傷害程度	場所	WBGT値 (補正値込み)	作業員 年齢	装備	保冷剤	延べ 作業時間	発症 時間	作業内容	作業後・休憩中に発症
1	○	6月9日	月	熱中症Ⅰ	軽傷Ⅰ	No.5資材倉庫	21	18	G	2	1:15	15:05	一般廃棄物処理	○
2	—	6月13日	金	熱中症Ⅰ		1号機T/B海側エリア	28.5	51	Y	—	1:30	8:45	火気養生組立作業	—
3	○	6月16日	月	脱水症	不休	構内企業センターX棟	27	38	Y	2	1	8:45	片付け業務	—
4	○	6月18日	水	熱中症Ⅰ	不休	一時保管エリアF	28.2	29	Y	2	1:15	9:05	コンテナ蓋開け、作業補助	—
5	—	6月19日	木	熱中症Ⅰ		増設ALPS	23.5	22	Y	2	2:15	13:35	HICの入替え作業	○
6	—	6月20日	金	脱水症		6号D/G室	—	56	Y	—	—	—	ディーゼル発電機点検	—
7	—	7月2日	水	脱水症		4号機力バー建屋	25.3	54	Y	1	—	9:45	キャスクの吊り降ろし作業	—
8	—	7月3日	木	熱中症Ⅰ		増設多核種除去設備建屋	35.5	23	Y (アノラック)	4	—	11:00	計器フランジ取り付け作業	○
9	○	7月8日	火	熱中症Ⅰ	不休	共用ブール地下1F	39.8	—	Y (アノラック)	—	1:00	8:00	高圧ケーブル布設作業	—
10	—	7月15日	火	熱中症Ⅰ		増設ALPS建屋	24.7	34	Y	—	1:10	11:40	1~4号機 多核種除去設備の運転管理	○
11	—	7月16日	水	熱中症Ⅰ		既設多核種除去施設	34.3	38	Y	—	—	9:30	既設ALPS建屋内にて資機材の運搬作業	—
12	—	7月18日	金	脱水症		2号機T/B1FL	22.8	66	Y	4	0:08	6:03	屋外放射線環境の監視他業務	—
13	—	7月23日	水	熱中症Ⅰ		4号機R/Bオペプロ	28.1	25	Y	3	2:30	9:20	4号建屋内でCRのブール内移動作業	—
14	—	7月25日	金	脱水症		1号北西ヤード	26.2	45	Y	2	—	11:20	1号機原子炉建屋北西ヤードで火気作業	○
15	—	7月28日	月	熱中症Ⅰ		2号燃料取出し用構台	26	53	R	2	0:20	11:03	2号機原子炉建屋オペプロにて受電測定	○
16	—	8月1日	金	脱水症		土捨て場北	27.5	25	Y	2	2:10	4:40	R Oテントで使用した機械を除染作業	—
17	—	8月1日	金	脱水症		協力企業棟	28.6	67	W	2	0:40	10:07	1F企業センターX棟で片付け業務委託	○
18	—	8月8日	金	脱水症		1~4号出入管理所ゲート	31	50	一般服	4	4:29	13:20	1F入退管理棟他出入監視業務	—
19	○	8月20日	火	熱中症Ⅰ	不休	1号機大型カバー東面	32	25	Y	2	2:20	9:04	大型カバーの足場組立作業	○
20	○	8月21日	水	脱水症	不休	固体庫9棟西側ヤード	27.9	31	Y	2	2:15	4:56	資機材の廃棄処理の為の片付け作業	○
21	—	8月21日	水	脱水症		1号機大型カバー鉄骨上部	30.5	51	Y	2	—	8:30	鉄骨薄ボルト締め付け作業中	○
22	—	8月22日	木	熱中症Ⅰ		大型機器点検建屋	32.1	45	Y	2	1:20	20:39	大型機器点検建屋タンクで除染・保管作業	○
23	—	8月22日	木	熱中症Ⅰ		共用ブール建屋	28.8	57	Y	—	1:30	10:20	共用ブール3階で資機材運搬作業	—
24	○	8月27日	水	熱中症Ⅰ	不休	骨材貯蔵設備構台上	31	35	一般服	2	3:30	13:20	揚重作業のための玉掛け補助	—
25	○	9月17日	水	熱中症Ⅰ	軽傷Ⅰ	増設固体廃棄物焼却設備	23.7	53	一般服	5	2:00	15:30	増設固体焼却設備で山留材組立作業	○
26	—	9月18日	木	熱中症		ALPS装備交換所	36.3	46	Y装備	3	0:50	10:35	吸着塔4C内部の確認作業	—
27	○	9月26日	金	脱水症	不休	1号機大型カバー作業所	26.8	57	Y装備	0	1:20	9:17	外部足場撤去作業	○
28	—	10月15日	水	脱水症		Cエリア	33	56	Y装備	1	1:25	10:55	廃液供給タンクエリアで資機材運搬	○

## 5. 安全活動実施状況 作業点検(リスクアセスメント強化)の振り返りと関係者への周知

### 事例：タンク解体片収納作業における転倒・負傷災害

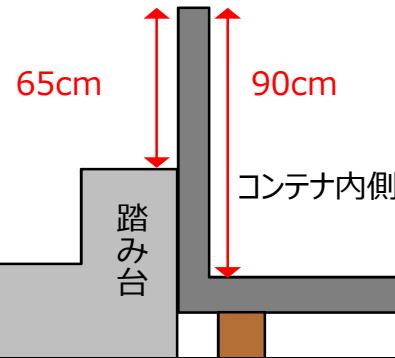
発生日時：2026年1月8日（木）

#### 【概要】

ノックタンク解体片収納作業において、コンテナ内に吊り降ろした解体片の玉外しを終えた作業員（被災者）がコンテナの縁を乗り越えて外へ出ようとした際に、左足がコンテナ縁へ引っ掛けられ、踏み台を踏み外し転倒・負傷した。

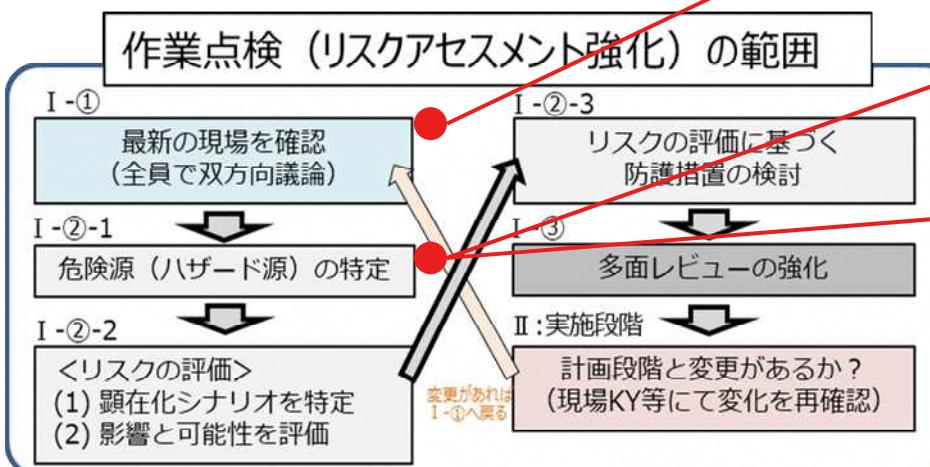
#### 【主な要因】

コンテナ内側に踏み台がなく、90cmの高さを乗り越えようと足を引っ掛けた。



#### 作業点検における教訓

- 作業点検の実施から8カ月が経過しており、その間、作業進捗や、手順の不足などがあった。このような状況下では、現場KYや作業点検により、改めて危険源を特定し、必要な防護措置を検討する必要があった。
- 普段、災害や問題も発生せずに実施できている場合、それを危険だと認識できず、結果として危険源が特定されない可能性がある。
- 作業点検におけるポイントである「危険源の特定」は、作業が問題なくできる、できないではなく、先ずは現場にて危険なもの、または危険の可能性のあるものを特定することである。危険源を特定した後に、人体や環境影響が発生する顕在化シナリオを特定し、必要な防護措置の決定を行うこと。



# 参考:安全活動実施状況 災害発生事象（OE情報）の関係者周知

前回報告済み

事象の概要・原因・教訓・再発防止対策を社内外関係者へ速やかに指示

件名	鉄骨ボルト締付作業中に電動トルクレンチの反力受けとボルトに指を挟まれ負傷	タイミング	作業中
作業分類	ボルト締付作業	周知対象	作業員

**概要** 発生日：2025年10月9日

鉄骨柱組立作業中、ボルト締め付け作業において左手薬指が電動トルクレンチの反力受けとボルト(ナット)に挟まれ負傷。

## 被災時の作業状況

- ①電動トルクレンチを作動
- ②反力受けが半時計廻りに回転
- ③反力受けとボルトの間に左手薬指が挟まれた



【被災時の作業イメージ】

## 原因

(直接原因)

反力受けとボルトの間に左手薬指を置いてしまった

## 教訓

- ・TBM-KY等で**工具の使用方法・安全対策を確認**する
- ・安全対策が**有効であるか**を**「現地・現物」**で確認する
- ・作業状況に合わせた**物理的対策**を検討する

## 1Fでの所内展開

再発防止の観点から以下を1Fにて展開

- ・電動トルクレンチを使用した作業の**有無確認**（物理的対策がない場合は一旦立ち止まり対策検討）
- ・危険源の特定(はされ災害防止の観点)とそれに対する**防護措置の再確認**
- ・経験の浅い作業員などへの**教育・フォロー実施状況の調査**(被災者は経験5年, 1F経験0ヶ月、入構2日目)

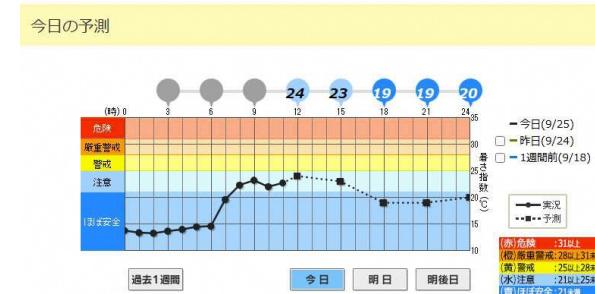
# 参考:安全活動実施状況 热中症対策:気象・災害情報発信による注意喚起

前回報告済み

## 1. 環境省「熱中症予防サイト」を活用したWBGT値予報の発信

環境省「熱中症予防サイト」より、翌日のWBGT値を確認し、元請各社、社内へ毎日発信（16時頃）し、熱中症の注意喚起を図っている

<https://www.wbgt.env.go.jp/alert.php>



## 2. サイネージモニターを活用した気象情報と災害情報の発信

構内4か所に、サイネージモニターを設置し、作業員が最新の気象情報・WBGT値・災害情報（24時間）を確認できるようにしている



TEPCO

# 参考:安全活動実施状況 热中症対策：作業場のWBGT値の把握

前回報告済み

## 1. 热中症注意喚起ボードの設置

構内9か所（休憩所やバス待合所など）において、作業員の動線上に、熱中症注意喚起ボード（WBGT値）を設置し、WBGT値を確認しやすいようにしている



熱中症注意喚起ボード

## 2. 作業場毎のWBGT値測定と作業時間・休憩の管理

- ・作業場ごと、また、時間経過ごとにWBGT値を適宜測定し、作業時間、休憩時間を適切に管理している
- ・特に過去の傾向から、1回目の休憩前で熱中症を発症しているため、1回目の休憩を早めにすること呼び掛けている
- ・休憩する際には、マスクを必ず外し、水分と塩分を摂取するようにしている
- ・塩タブレットは、各休憩所に配備している

WBGT測定器  
(携帯型)



塩タブレット



前回報告済み

### 1. 热中症・脱水症発症が発症しやすいケース

- ①早朝の気温上昇時間帯（8時～9時頃）
- ②作業開始1時間程度
- ③休憩中や作業終了後

例：冷たい飲料水を一気に飲む、空調機等で急速に身体を冷やす  
着替えを行わない

- ④Y装備（全面マスク）作業で1時間を超えて作業を行った時
- ⑤暑熱順化不足（暑熱順化は、休日期間でも減少していく傾向）

例：休日明け + WBGT値が高めの日  
お盆休み等の連休明け

### 2. 热中症・脱水症発症の件数と症状

- ①至近3年間の热中症・脱水症発症の件数は、同水準で推移
- ②早めにE.R受診をして、速やかに対処することで症状の重症化を防いでいる

### 3. 热中症予防活動の結果

- ・今年度も猛暑であったが、热中症・脱水症の重症化（热中症Ⅲ）を防いだ
- ・热中症や脱水症が発症した際、作業環境や気象状況等をデータ化し、元請企業  
全作業員、当社社員へ速やかに注意喚起を行った

## 1. 热中症・脱水症を発症した際の状況把握と速やかな情報発信

热中症・脱水症を発症した場合、当時の作業状況（作業場のWBGT値、作業時間、保安装備など）や作業環境（気温、WBGT値など）を当日中に確認している  
また、热中症・脱水症の灾害情報をまとめ、速やかに元請企業へ発信\*し、翌日の朝礼で全作業員へ热中症の注意喚起を促している

\*企业イントラ／元請安全関係者への一斉メール／安推協会議

## 2. 暑熱順化やWBGT値上昇期での注意喚起

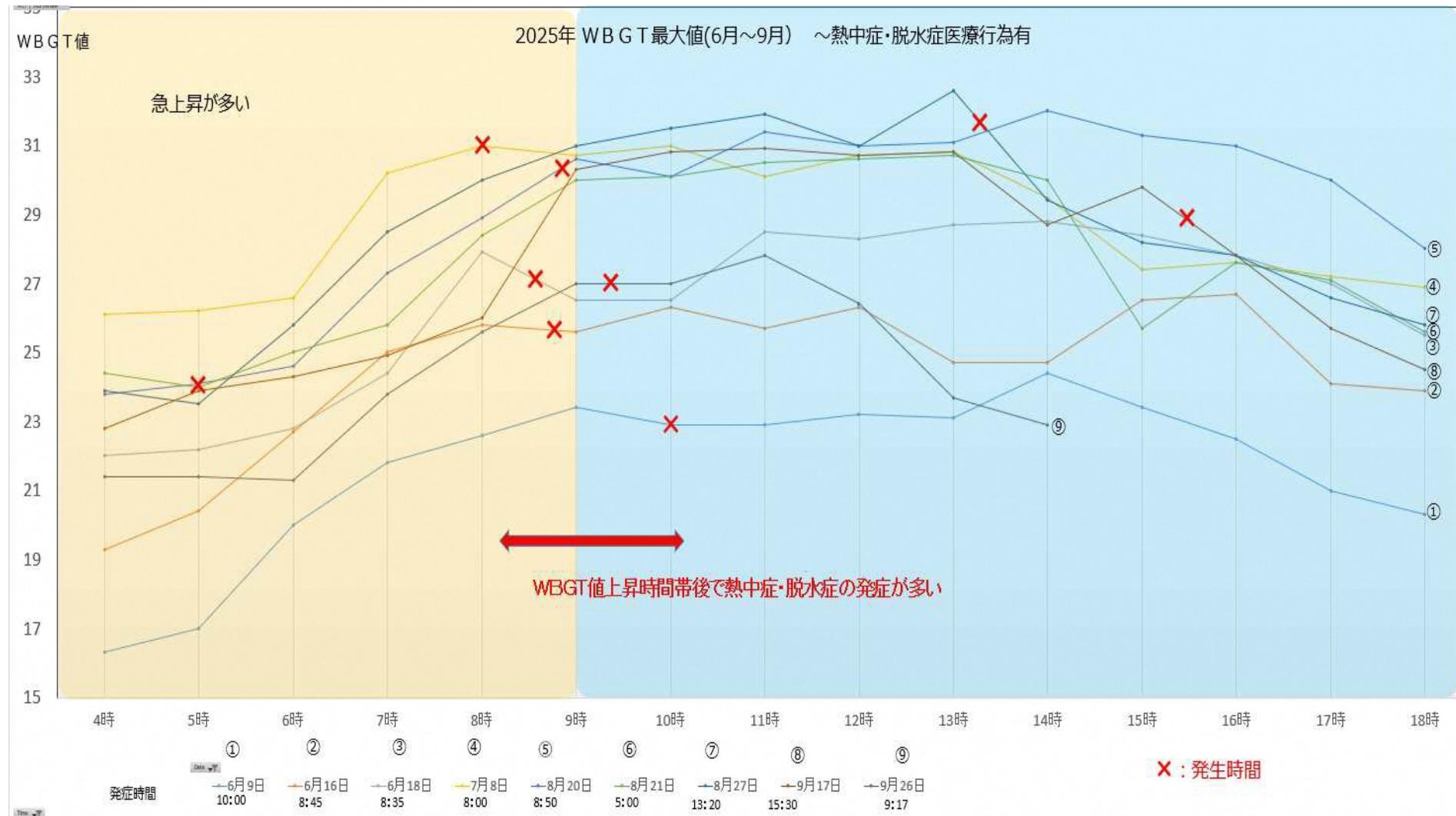
- ・連休明け、お盆休み明けで暑熱順化が失われるため、作業再開して数日は、早めの休憩を摂るように周知している
- ・气象庁や环境省の气象情報を常に監視し、顯著な気温やWBGT値の上昇の恐れがある場合は、元請企业へ注意喚起を行っている

周知例は、次頁参照

## 參考:熱中症予防活動 周知事例①

## 前回報告済み

## 2025年熱中症・脱水症発症時（医療行為有り）のW B G T 変化



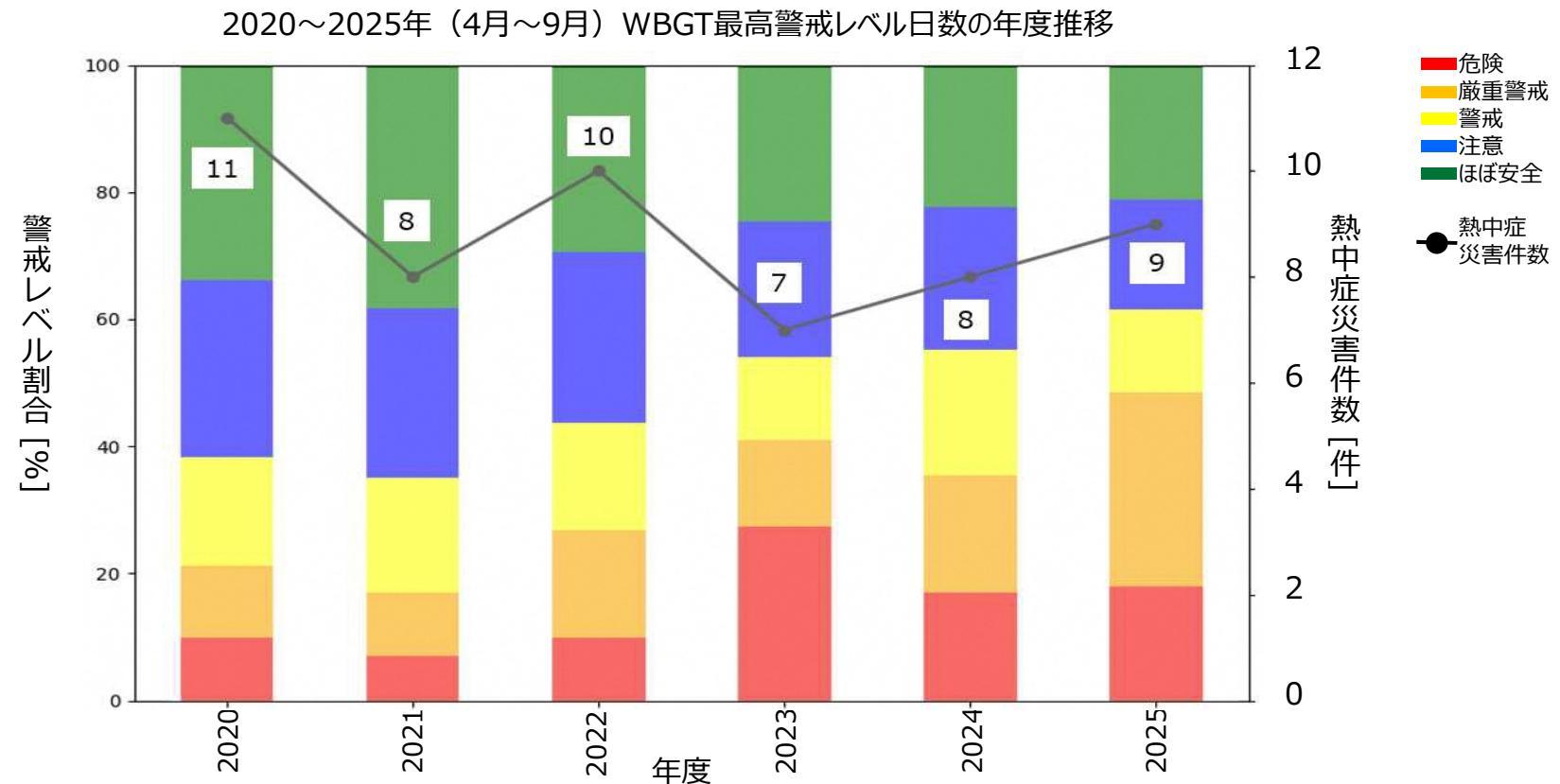
× : 発生時間

## 参考:熱中症予防活動 周知事例②

前回報告済み

### 近年の気象状況推移と災害発生件数の関係

※ 環境省熱中症予防情報サイト公開データ分析



- WBGT値の高警戒レベルとなる日の割合は**増加傾向**にあり、2025年度では7割以上の日で「注意」以上となった
- 高警戒レベルの増加に反して、**熱中症発生件数は現状維持**に留まっている

# 参考:熱中症予防活動 热中症予防の物的対策

前回報告済み

## 1. 保冷材の着用ルール

- ・熱中症予防期間中では、作業員、社員が現場出向時に、クールベストおよび保冷剤着用をルール化している



- ・構内休憩所、装備交換所（以下参照）に共用の保冷剤冷凍庫および保冷剤（約4万個）を配備している

### [構内配備箇所]

1. 入退域管理棟、大型休憩所、運転手用装備室
2. 1～4号機出入り管理所、免震重要棟、免震重要棟前休憩所
3. 登録センター
4. 5/6号機S/B
5. 企業センターA棟
6. 企業センターB棟
7. 南造成エリア休憩所（土捨て場）
8. ALPS装備交換所
9. Gタンクエリア装備交換所
10. 1～4号周辺休憩所（1/2号機S/B、3/4号機S/B、情報棟、HTI）
11. 減容処理建屋
12. 増設雑固体廃棄物焼却建屋
13. 既設雑固体廃棄物焼却建屋

# 参考:熱中症予防活動 热中症予防の物的対策

前回報告済み

## 2. 構内給水車の配備

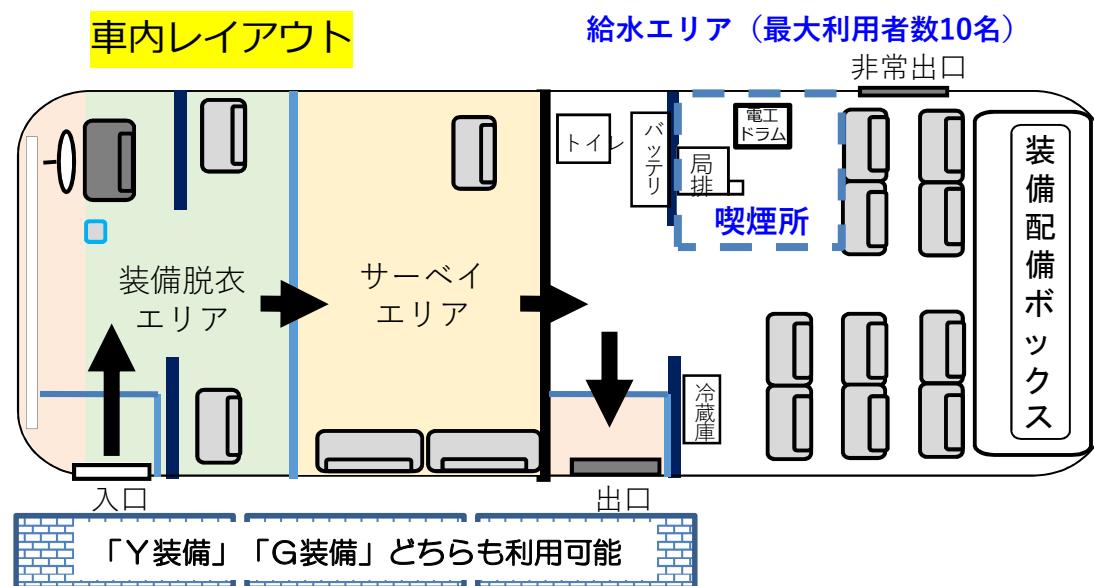
構内で作業をする作業員の熱中症予防対策として、給水車（大型バス）3台の運用を行っている

[運用期間]

2025年6月2日（月）～2025年10月末（予定）

[給水車の仕様]

給水設備、簡易トイレ、喫煙所（加熱式たばこ限定）を設置



# 参考:熱中症予防活動 热中症予防の物的対策

前回報告済み

◎厚生労働省 令和7年「STOP! 热中症 クールワークキャンペーン」実施要綱の推奨対策実施

[r7\\_neccyusho\\_campaign\\_2.pdf](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku-attach/0000107777_00017.pdf)

## 3. ウェアラブルデバイス（熱中症対策ウォッチ）の活用

作業中の労働者の健康状態の確認するために、ウェアラブルデバイスの導入を当社・各社で進めている  
(各企業で独自にルールを決めている)

[アラートもしくはバイブレーションが鳴った場合の対応例]

- ①作業班全員が、すみやかに休憩する
- ②鳴った作業員のみ休憩する（同僚が同行する）



## 4. 空調服の活用

かいた汗を空調服のファンにより、気化（蒸発）させることで、体温を奪い身体の温度をさげることができ、余分な汗を防ぎます  
なお、空調服には、以下のとおり使用範囲を限定しています

- ①一般区域もしくは汚染の低いGzoneエリアでのG装備に限定する
- ②放射性ダストが舞い上がる作業では使用不可とする
- ③Y装備やR装備でカバーオール内では、空調服着用を不可とする
- ④作業を伴わない一般服（個人靴）での移動時では、空調服を使用可能とする



---

以 上